

# 仕 様 書

6600V 架橋ポリエチレン絶縁ビニルシース  
波付鋼管がい装ビニル防食ケーブル

[記号：6600V CVMAZV]  
《導体サイズ：150mm<sup>2</sup>～325mm<sup>2</sup>》

住電 H S T ケーブル株式会社

1. 適用範囲

本仕様書は、電気設備技術基準に基づく題記電力用ケーブルに適用する。

関連規格 : JIS C 3606

2. 品名略号

6600V CV-MAZV ○ × □SQ  
(線心数) (サイズ: 150 mm<sup>2</sup> ~ 325 mm<sup>2</sup>)

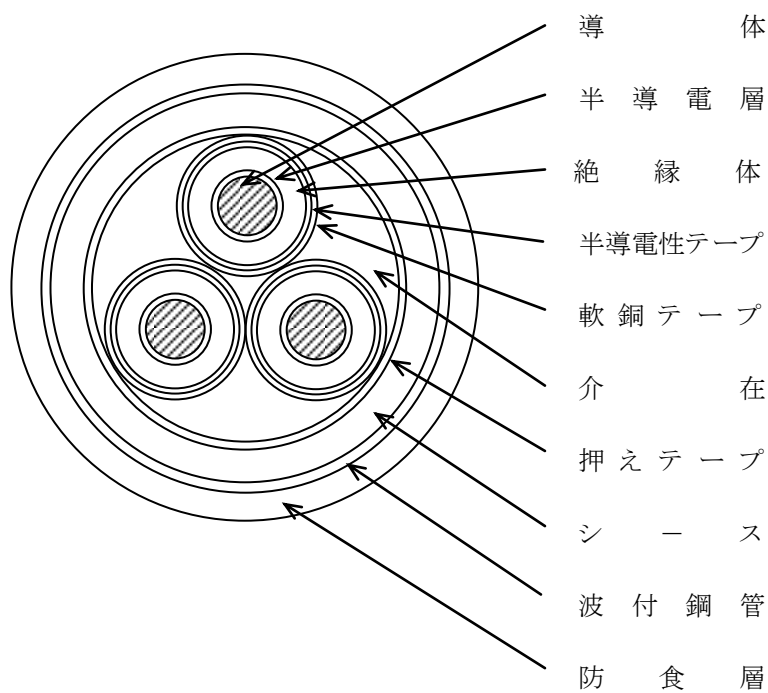
3. 構造及び材質

構造及び材質は次のとおりである。

- 3.1 導 体 : 電気用軟銅線の円形圧縮より線。最外層Sより。
- 3.2 絶 縁 体 : 架橋ポリエチレン  
 導体部に接する部分には、半導電層を設ける。  
 なお、半導電層の厚さは、絶縁体の厚さに含めるものとする。  
 絶縁体の上には、半導電性テープを重ね巻きする。  
 平均厚 : 構造表の値の 90 % 以上  
 最小厚 : 構造表の値の 80 % 以上  
 外径許容差 : ±0.7 mm
- 3.3 線心識別 : 絶縁体上(半導電性テープ上)に施す着色テープの色による。  
 3心 : 白、赤、青
- 3.4 遮へい : 厚さ約0.1mmの軟銅テープ1枚を、3.2の線心の上に施す。
- 3.5 より合わせ : 所要線心数を適切な介在とともにSよりにより合わせ、その上に押えテープを施す。
- 3.6 シ ー ス : ビニル  
 平均厚 : 構造表の値の 90 % 以上  
 最小厚 : 構造表の値の 85 % 以上  
 色 : 黒
- 3.7 波付鋼管 : スチール  
 平均厚 : 構造表の値の 90 % 以上  
 最小厚 : 構造表の値の 85 % 以上
- 3.8 防食層 : ビニル  
 平均厚 : 構造表の値の 90 % 以上  
 最小厚 : 構造表の値の 70 % 以上  
 色 : 黒

- 3.9 表 示 : ケーブルの適切な箇所に、下記事項を連続表示する。
- (1) 記号( 6 6 0 0 V C V )
  - (2) ブランド名( H S & T C a b l e )
  - (3) 製造業者名又はその略号
  - (4) 製造年( 西暦年号 ) 又はその略号

3.10 ケーブル断面図



## 4. 特性及び試験方法

項 目		特 性		試 験 方 法	
導 体 抵 抗		付表の値以下		JIS C 3005による	
耐 電 圧		付表の電圧に10分間耐えること		JIS C 3005による	
絶 縁 抵 抗		付表の値以上		JIS C 3005による	
引 張	絶 縁 体	引張強さ	10 MPa 以上	JIS C 3005による	
		伸 び	200% 以上		
	シ ー ス	引張強さ	10 MPa 以上		
		伸 び	120% 以上		
	防 食 層	引張強さ	10 MPa 以上		
		伸 び	120% 以上		
加 熱	絶 縁 体	引張強さ	加熱前の値の 80 % 以上	JIS C 3005による (120℃±3℃×96時間)	
		伸 び			
	シ ー ス	引張強さ	加熱前の値の 85 % 以上		JIS C 3005による (100℃±2℃×48時間)
		伸 び	加熱前の値の 80 % 以上		
耐 油	シ ー ス	引張強さ	浸油前の値の 80 % 以上	JIS C 3005による (70℃±2℃×4時間)	
		伸 び	浸油前の値の 60 % 以上		
加熱変形	絶 縁 体	厚さの減少率 40 % 以下		JIS C 3005による	
	シ ー ス	厚さの減少率 50 % 以下			
耐 寒	シ ー ス	試験片が破壊しないこと		JIS C 3005による (-15℃)	
難 燃		60秒以内に自然に消えること		JIS C 3005による (60度傾斜試験)	
圧 縮 変 形 ( 波付鋼管)		外径の変形率 5% 以下		注1	
曲 げ ( 波付鋼管)		ひび、割れ、その他異常を生じないこと		注2	

注1) 圧縮変形は、完成品から長さ500mm以上の線心、シース及び防食層を取り除いた中空波付鋼管試料を作成し、2枚の平行板間にはさみ、管軸と直角方向に294.2kN/m<sup>2</sup>の圧力を加え、変形率を測定する。

$$\text{圧力 (kN/m}^2\text{)} = \frac{\text{試料に加える加重 (kN)}}{\text{鋼管の外径 (m)} \times \text{試料の長さ (m)}}$$

$$\text{変形率 (\%)} = \frac{\text{試験前の鋼管外径 (mm)} - \text{試験後の鋼管外径 (mm)}}{\text{試験前の鋼管外径 (mm)}} \times 100$$

注2) 曲げは、完成品から適切な長さのケーブル試料を取り、室温において波付鋼管外径の20倍の円筒に沿って180度屈曲させたのち直線状に戻し、さらに反対方向に180度屈曲させたのち、直線状に戻す操作を5回繰り返して行う。

## 5. 受 渡 試 験 項 目

完成品は下記試験を行う。

- (1) 構造試験
- (2) 導体抵抗試験
- (3) 絶縁抵抗試験
- (4) 耐電圧試験

## 6. そ の 他

ケーブルグランド又はパッキン等の御使用の都合により、特定のケーブル外径公差を必要とされる場合は、あらかじめ弊社にご相談ください。

取り扱い時の注意
----------

### 1. ケーブル内への水の浸入防止

ケーブル内に水が浸入した場合、絶縁性能が低下し寿命を短縮させる可能性があります。従ってケーブル布設中および保管中の端末防水処理、延線中の外傷防止、あるいは両端末や直線接続処理時の防水などに十分配慮願います。

### 2. シャへい銅テープへの接地方式

シャへい銅テープの接地方式については種々の手段を講ずる必要がありますので、問い合わせ下さい。

(注1) 片端接地とする場合は非接地端側に誘起する電圧を50V以下になるよう設計するのが一般的です。

(注2) 接地用リード線がはずれるなどして、シャへい銅テープがアースから浮いた場合、ケーブル事故に至る可能性があります。従ってリード線はしっかりと取り付けて下さい。

### 3. 波付鋼管上には、鋼管の腐食抑制のため防錆剤を塗布しております。ケーブルを垂直または傾斜部に布設する場合には、端末部の鋼管と防食層の間より防錆剤が滲み出す可能性がありますので、端末施工時に鋼管と防食層の間のシールをお願いいたします。

構 造 表 6 6 0 0 V C V M A Z V ( 3 心)

公称 断面積	導 体		絶縁体 厚さ	絶縁体 外径	シース 厚さ	波 付 鋼 管		防食層 厚さ	仕上り 外径 (約)	导体抵抗 (20℃)	試験電圧	絶縁抵抗	静電容量 (参考)	概算質量
	構成	外径				厚さ	外径							
mm <sup>2</sup>	形状	mm	mm	mm	mm	mm	mm	mm	mm	Ω/km	V/10分	MΩ·km	μF/km	kg/km
150	円形圧縮	14.7	4.0	22.7	3.3	0.5	69	2.5	74	0.124	17	1 500	0.52	7 850
200	円形圧縮	17.0	4.5	26.0	3.6	0.5	76	2.5	81	0.0933	17	1 500	0.51	9 900
250	円形圧縮	19.0	4.5	28.0	3.8	0.5	82	2.5	87	0.0754	17	1 500	0.55	12 000
325	円形圧縮	21.7	4.5	30.7	4.0	0.5	89	2.5	94	0.0579	17	1 500	0.61	14 500